

産後ケアセンター開設から4年間の取り組み



○酒井康子¹⁾ 島ノ江栄子¹⁾ 福澤雪子²⁾

1) 医療法人エスダブリューシー真田産婦人科麻酔科クリニック 2) 福岡女学院看護大学看護学科

緒言

少子化・核家族化、地域とのつながりの希薄化に加え、高齢出産の増加、入院期間短縮による授乳や育児の習得中での退院により十分なサポートが得られないケースが増加している。Aクリニックでは、子育てサポートシステムの充実を目指し、2014年クリニックに隣接した産後ケアセンターを開設、2016年B市の委託事業所となる。開設からの取り組みを報告する。

実践内容

施設概要 デイケア(土日祝日を除く)
 スタッフ：専従助産師1名 事務職 1名
 利用者 B市産後ケア事業助成対象者及び助成対象外の産後4か月迄の母子1日2組
 提供するケア ①育児全般の支援 ②授乳支援
 ③身体的回復へのケア④心理的支援 等
 利用料金 (1日)

利用区分	利用料	多胎児加算 (1人につき)	
B市産後ケア事業助成対象	生活保護・市民税非課税世帯	1,000円	500円
	その他世帯	6,000円	3,000円
助成対象外	Aクリニック出産者	6,000円	3,000円
	一般	20,000円	10,000円

研究方法

分析方法

- 施設月報の分析
- 問診票・利用後アンケートの集計
- 個人情報含まない

倫理的配慮

- 研究目的で使用するデータについて対象者に説明し同意を得た
- 月報の研究使用については施設長の承認を得た
- 分析対象期間
- 2014年6月～2018年6月 (49か月間)

結果

	委託前	委託後
稼働月数	30か月	19か月
稼働率	52.8%	75.3%
利用者数 (延1203組)	626組	577組
1人当たり平均利用回数	1.4回	1.8回
産後1か月以内の利用 (776組)	445組 (71.0%)	331組 (57.4%)

B市産後ケア事業助成対象	390組 (67.6%)
助成対象外	187組 (32.4%)

表3 利用目的の内訳

- 育児全般の支援
 - 発育や発達が不安
 - 育児法がわからない
 - 子育てに自信がない
 - 相談できる家族や友人がいない
- 授乳支援
- 身体的回復へのケア
 - 疲れ
 - 睡眠不足
- 心理的支援

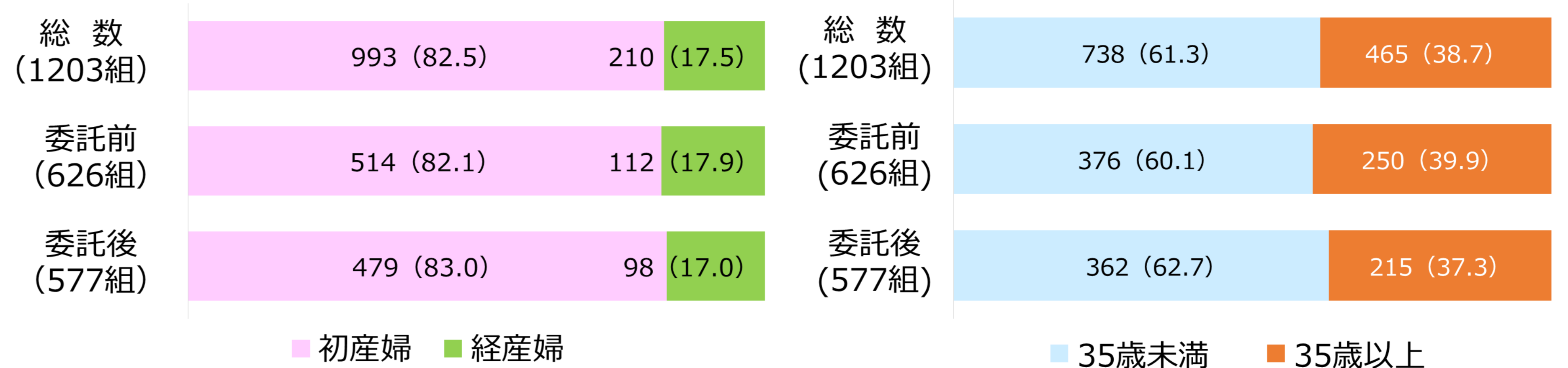


図1 初産別利用者の割合[人数(%)]

図2 高齢出産者の割合[人数(%)]

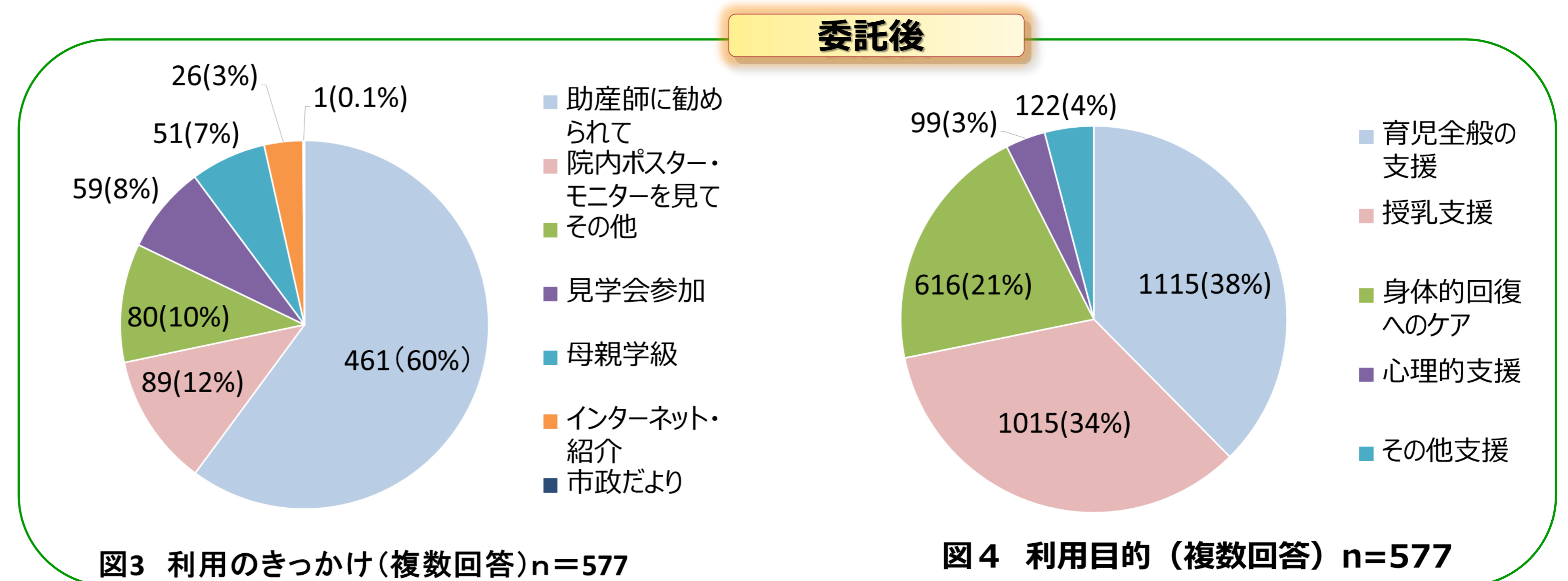


図3 利用のきっかけ(複数回答) n=577

図4 利用目的(複数回答) n=577



図5 利用後の感想(複数回答) n=577[人数(%)]

考察

- 8割は初産婦で、育児支援・授乳支援・身体的回復へのケアを希望していた。
- 約4割は高齢出産で、身体的回復への期待や家族・周囲のサポート不足等が推察される。
- 初産婦にとって産後1か月間は育児等の適応過程であり、母子ケアの専門家による支援の必要性が示唆された。
- 約7割はB市助成対象であることから、委託事業所としての役割を果たし、子育て支援ができていると考える。

今後の課題

- 宿泊型の産後ケア希望者への対応や他院出産者も利用しやすい運用面での検討
- 委託事業所として、さらに行政と連携した役割の遂行

本演題に関連して、開示すべき利益相反状態はありません。

